



京都 YWCA

7 2020

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

台北 YWCA 会長からのメッセージ



京都 YWCA と台北 YWCA との交流のきっかけは、世界 YWCA 総会に参加した京都 YWCA のユースが「台北 YWCA と交流したい!」と言ってきたことでした。その後、台北 YWCA から正式に「ユース交流の機会を作っていきたい」という連絡をいただき、今すぐ始められることとして YWCA と合同で企画している One Camp にお誘いしました。

1月に初めてオンライン会議で会長フェリシアさんはじめ、台北 YWCA の皆さんと直接お会いすることができました。その後、COVID-19 の世界的流行の中、それぞれの YWCA が直面している課題や対応策について情報共有することもできました。そして4月25日に初オンラインプログラムとして開催した「イースター&世界 YWCA 会員日」集会にゲスト参加くださり、メッセージを届けてくださいました。京都 YWCA の100周年を見据えた「ユースエンパワメント」の取り組みに向けて、アジア・世界の<YWCA ネットワーク>を活かしたつながりを創っていききたいと思います。

京都 YWCA の皆さんへ

京都 YWCA のオンラインでの「世界 YWCA デー」にお招きいただいたことを光栄に思います。これは私にとっても、おそらく皆さんにとっても初めての経験です。何年か後に振り返ったとき、一堂に会した集まりからオンラインでの集いへとイベントの形態が変化したのは COVID-19 がきっかけだったと思い起こすことでしょう。YWCA にあって、集い方が変化しても変わらないものは、考え方、共有の仕方、語り方です。

2019年11月に南アフリカのヨハネスブルグで行われた世界 YWCA 総会への参加は私にとって初めての経験ですが、70カ国以上の国から500名の女性が参加する国際会議への出席は刺激的な経験でした。世界の重要な女性の問題と、聖書の教えに照らしてそれにどう対処していくべきかに焦点が当てられました。これらの問題の多くは、比較的平和で豊かなアジアの国に住む私たちの多くにとって、遠い問題と見えるかもしれませんが、例えば、女性の割礼（性器切除）の問題は身近に感じられる問題ではありません。しかし、アフリカの女性たちが今も苦しんでいるこの恐ろしい罪の話に耳を傾けながら、この問題はアジアの私たちにとっても遠い話ではないと気づきました。私たちが女性に対するこのような罪悪に気づき、それについて考え、共有し、語ることによってのみ、これをやめさせ、私たちの姉妹と私たち自身を守ることができるのです。

世界 YWCA では日本からの若い参加者たちは、YWCA の重要課題である、正義、ジェンダー平等、持続可能な環境、平和についてよく学んでおられ、彼女たちが主催した分科会セッションは、創造的で、心温まるものであり、多くの参加者がありました。

世界 YWCA 総会では、2035年ビジョンに向けて若い女性を支援、育成、エンパワーすることを再び決意しました。若い女性の国際的な交流を促進することが、彼女たちが成長し、リーダーシップを養い、他者に影響を与え、自信を育み、創造性を磨き、視野を広げることにつながることを確信しました。

南アフリカから帰国した後、この夏の「One Camp-ASIA」への参加について京都 YWCA と神戸 YMCA と連絡を取り合いました。台北 YWCA は余島のワンキャンプに子どもたちを参加させ、若者同士の交流の機会を与える計画にワクワクしていました。しかし、残念ながら予期せぬ新型コロナウイルスの流行によって計画は実現不能となりました。私たちは、京都 YWCA と神戸 YMCA と協力し合って、初めてのバーチャルキャンプをこの夏に実施できないかと考えています。これが実現するかどうかは新型コロナウイルスの状況次第ですが。

このパンデミックが終息した後は、国境を越えた活動を推進したいと考えています。それまで皆さまご自愛ください。台北 YWCA の一同、この困難な状況の中、日本の兄弟と姉妹の健康をお祈りしています。

台北 YWCA 会長 フェリシア・フン
(翻訳 編集部)



異なる境遇の人々が会えるキャンプ

One Camp 誕生への道

2017年12月、私は京都YWCAの一室で、総幹事の山本知恵さん、京都YMCA中村さん、神戸YMCA山本さんと議論をしていました。新しいようで全く新しい試みが始まりました。

このOne Campへの萌芽はいつから存在しているのでしょうか。

余島キャンプは1950年、戦争から生還した青年たちによってスタートしました。戦争責任の告白から、戦後復興へと活気づいた時期、創設者である今井鎮雄は自身の戦争体験から、「人間の尊厳とは何か」をキャンプの火を囲んで若者と語り続けました。

1953年、脳性麻痺の子どもたちに生きる希望を与えたいと、家庭をまわり、新聞社や医師と協同してキャンプを開催します。現在「はんしん自立の家」で理事長として活躍する片岡寛さんは、この「肢体不自由児のためのキャンプ」のキャンパーです。片岡さんは「あのキャンプで初めて一人の人間として認められた」と力強く語ります。

2015年、戦後間もない頃に蒔かれた種は次のディスカッションに繋がります。「私たちが今このキャンプを蘇らせるとしたら、どういうキャンプができるだろうか？」この問いに一人の女子学生が答えました。「障害者だけを集めるの

ではなく、色んな人が共に過ごすキャンプができないか」。

こうして、身体的、心理発達の、精神的、社会的に異なる境遇の人々が共に過ごすための「One Camp」が生まれました。京都YWCAからはカルーナの方々など、YMCAだけでは繋がれない人々をキャンプに結びつけてくれました。

「楽しい」だけを追い求め「楽しくない」に目をつぶることがないように、「ここにいる全員が幸せに過ごせるように」をキャンプの目標としています。この目標に向かう自分たちの振る舞いを省みながら、日々改善しようと努力します。

大切なことは、見たいものだけを見て、見たくないことには蓋をする弱さを克服することです。私たちのすべての道は戦後に通じています。One Campで人々が行き交う姿を眺



めていると、開催を一番喜んでくれているのは、民主主義国家にこの国を発展させようとキャンプ場を創った青年たちだと確信します。社会の原動力となるキャンプをこれからも続けていきたいと思います。

(公益財団法人神戸YMCA 余島センター所長 阪田 晃一)



「Rise up」

若い女性の変革をもたらすためのリーダーシップ



現在京都YWCAでは「Rise Up」を合言葉に若い女性たちが日々の生活の中で感じる理不尽さや社会問題について持ち寄り、その根底にある問題の改善に向け何ができるのかを考える取組みが始まっています。

このような動きは、世界YWCAが2018年に若い女性の変革をもたらすリーダーシップのための「グローバル・ライズアップ・ガイド (Global Guide for Young Women's Transformative Leadership)」(日本語版、2019年4月発行。以下「ライズアップ・ガイド」という)を発行したことを機に各国のYWCAに広まっています。国内の他いくつかの地域YWCAにおいてもこの「ライズアップ・ガイド」を活用した、変革をもたらすためのリーダーシップを高めるための様々な取組みが行われています。

ところでYWCAが目指すリーダーシップとはどのようなものなのでしょうか。「ライズアップ・ガイド」では、リーダーシップを個人の資質とみるのではなく、世代を超えた多様な仲間との協働をとおして気づき学び合うことで身に付けていくものと説いています。またこのようなリーダーシッ

プを世代を超えて分かち合うことで、一人ひとりがリーダーとして認識を高め、社会の変革に向けた行動につなげていくことができます。

このためには、個々人が直面している問題や疑問に思っていること等について不安を感じたり、批判されずに話し合うことができる「セーフ・スペース」が不可欠です。

京都YWCAではこの春から、若い女性を中心にオンラインでの「ライズアップ・ガイド」勉強会や様々なトピックについて話し合う「夜かふえ」等を実施しています。また今後は、中高YWCAを対象とした研修も予定しています。このようなセーフ・スペースで若い女性が自分の強み、価値、力を認識し、自分の経験を振り返ったり他人の経験に触れたりすることにより、アイデアや情報を共有し変革をもたらす行動を計画できるようになるとされています。

このような取組みが、京都YWCAにつながるユースにとって、社会の変革に向けてその人らしく「立ち上がる」ためのきっかけになればと思います。

(福岡由里子)



ユースの居場所、学びの場 ―オンライン「夜かふえ」



世界 YWCA 総会への参加者や各委員会に所属するユースの声をうけて、5 月初旬から始まったのが「夜かふえ」です。新型コロナウイルスの影響で、Zoom で開催された第 1 回「夜かふえ」。オンラインに抵抗のない世代ゆえか、何の障害も感じさせることなく「自分たちが YWCA でやってみたいこと」を語り合う時間を過ごすことができました。そこでは、コロナによる活動自粛の影響を感じさせない様々なアイデアが出ました。オンラインでの「夜かふえ」の継続はもちろん、海外の YWCA との共同イベントといったオンラインならではの案。また、世界の YWCA への訪問や、100 周年に向けてのランニングイベントとしてのカラーランなど、オフラインでやりたいことも語り合いました。

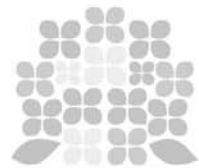
とはいえただ単に繋がることを目的としているわけではありません。それぞれが何らかの問題意識を持ち、自分たちの力を問題解決のために発揮したいと考えています。そのため、2 回目以降の「夜かふえ」では、それぞれの関心のある

問題を発表し、共有するという時間を過ごしています。世界 YWCA 総会の参加を経て自分に足りないと感じた課題、性暴力や性産業の問題、戦争の被害と加害の問題、職場における性差別の問題など、様々な関心事の共有と意見の交換により、自分の知らない問題や考え方に触れ合う濃密な機会となっています。そうしたなかで、台北 YWCA との合同イベントをやってみようという意見も出ました。現在「夜かふえ」のメンバーを中心にこの企画も同時進行で進めています。

今後「夜かふえ」は、ユースを中心にオンライン・オフラインを問わず語り合える居場所であり、社会問題についての学びの場であり、さらには様々なイベントの端緒となる創作の場ともなっていくことと思います。始まったばかりですが少しずつ輪を広げ、定期的な活動としての骨子を創り上げていきたいと考えています。皆様に暖かく見守っていただき、ユースの輪が広がるようご助力頂きたいと考えています。

(片岡英子)

シリーズ 「あじさい保育園だより」 ①



4 月 1 日の開園から間もない 4 月 7 日、京都市にも緊急事態宣言が出され、家庭での保育をお願いする日が続きました。41 名の登録園児の内、4 月は 30%、GW 明けからは 40～50% の利用でした。「子育て」が「孤育て」にならないようにとの想いでスタートしたあじさい保育園ですが、このような形で登園を控えていただくことになるとは想像もしていませんでした。外出もままならない状況下、家庭での保育をされている保護者の方や、子どもたちの心身の健康を願わずにはいられません。開園式の子どもたち、保護者の方たちの緊張と嬉しさが混ざった表情、様子を思い出すと、急に登園を中止され、どんなにか戸惑い、やるせない思いで過ごしておられるであろうか、また日々の生活のやりくりがどんなに大変であろうかと思っていました。

長期間、家庭保育にご協力いただいている保護者にお電話したところ、「家から見えてところにある保育園に通えないとは・・・」との声もあり、申し訳ない気持ちとともに、社会状況が落ち着き、一日も早く登園いただけることを願う日々でした。

一方で「この年齢（3 歳児）の子どもとこんなに長い時間過ごすことは想定していなかったもので、その成長ぶり、日々の変化に出会えることをよい機会ととらえています」と話してくださるご家庭もありました。

「三密」を逃れられない「保育園」という環境の中、保育を担うスタッフも、園での衛生面や自身の健康管理に平時以上の配慮で、懸命に取り組んでいます。

この期間にも登園していた園児たちは、園にも少しずつ慣れて、4 月には大泣きだった園児も、最近は「帰りたくない」と保護者の方を困らせることも。見送る際には、ハイタッチや投げキスをくれる園児もいます。

6 月 15 日からは保育の受入基準が通常保育に戻るとの案内が京都市より届きました。

2 ヶ月半遅れの「入園」に向けて、現場では受け入れ準備を進めています。

(園長 井上依子)



親子ライブラリーによる出前読み語り



京都 YWCA あじさい保育園の キリスト教保育について



キリスト教保育とは、人生の最初期の時期に、心底安心できる心の基盤を育むために、キリスト教の教えを保育の中で実践することです。園の基本理念は一人ひとりが愛される大切な存在として、命を大切に、共に生きることを目指すことです。それは多様性と共存、子どもも大人も互いに学びあうという、基本方針として具体的に捉えられています。

まず、神様が守っておられるのだという楽観主義を心に留め、一人ひとりが神様に愛された存在であるという視点から自分や他者との共生が始まることを心に留めます。そして、イエス・キリストに触れ、イエスを通して学び、振り返る保育を子どもも大人もします。日々の保育の中で、悩みや葛藤、失敗を繰り返しながら、人として成長するためにキリスト教保育があるからです。

その実践として、祈りと聖書の言葉に養われるということがあります。祈るという行為は、祈っている自分や私達のことを意識すると同時に、自分の知らない誰かの祈りの中で自分達が覚えられていることを意識する行為でもあります。私達は神様から祈られている存在であることを忘れる時、不安や恐れを克服していくことが困難になるのかもしれません。

最後に、聖書の言葉「(イエスは) 子どもたちを抱き上げ、手を置いて祝福された」を記します。神様が子どもたちを祝福しておられる。この神様からのメッセージを心に留め、信頼と安心の内に日々過ごされますようお祈りしております。

(日本聖公会 大阪教区司祭 小林聡)

「京都 YWCA 未来応援募金」への ご協力をお願い

「未来応援募金」は京都 YWCA の事業・活動を応援いただく募金です。ご寄付は、保育園備品の充実やユース育成などに充てられます。

郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

※通信欄に「未来応援募金」とご記入ください。

京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>



京都 YWCA 会館利用者の皆さまへのお願い

新型コロナウイルス感染防止のために、以下のルールを守っての会館のご利用にご協力をお願い致します。

1. 定められた通り、各部屋の最大収容人数を守ってください。
2. 37.5 度以上の発熱や強いだるさ・息苦しさの症状がある方は、ご利用をお控えください。体温計は受付で貸出し可能です。
3. マスクの着用をお願いします。お持ちでない方は、受付にて販売しておりますので、ご利用ください。
4. 入館時に、手指の消毒をお願いします。
5. 30 分に 1 回、窓を開けて部屋の換気をしてください。
6. 大きな声を出すことをお控えください。
7. 可能な限り、利用者間に一定の距離を保ってご利用ください。
8. 室内での飲食はお控えください。
9. 部屋の利用前と利用後に、よく手の触れる部分（机、椅子、ドアノブ、電気のスイッチ等）の拭き取り消毒をお願いします。消毒液とペーパータオルを、受付で借りてください。
10. 会館利用後 2 週間以内に、利用された方の中に新型コロナウイルス感染症の罹患者がいたことが分かった場合は、その旨を速やかにお申し出ください。

ご協力ありがとうございました

2020年4月1日から2020年5月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

清水義、小林聡

各指定寄付

※未来応援募金

今井貴美江、小池穂高、

本田次男、有田孝子

※世界 YWCA 総会派遣募金

有田孝子

※親子育ち支援委員会

匿名

※ APT

リンバヤラヤスプレーニー、北垣由民子、

林律、ジェナイダ、松永公子、本田次男、

織田雪江、清水弥生、高山亨、

榎ピーコス、匿名

※うららかふえ

小池しをり

※自立援助ホーム「カルーナ」

横川宏美、近藤八津子、山上義人、

小杉總子、神門佐千子、佐分利みどり、

大山悠子、中野かおり、辻川さとみ、

島崎明子、野崎千代、御前明美、

横川幸治、館山英夫、亀田和代、

吉村佳代子、吉村富子、弘中奈都子、

山崎美和子、篠田茜、松岡由香子、

織田雪江、森本純代、水野篤夫、

村上ヨシ子、大槻裕樹、竹岡哲朗、

竹之下雅代、中江和子、長瀬正子、

坪野えり子、堀部碧、林衛、文田則子、

伊東真喜子、矯風会京都部会、應典院、

匿名

※あじさい保育園

安藤いづみ、匿名

※賛助費

高野朗、岡昭男、片桐ユズル、天野博、

清水義、佐野千枝子、中村信博、

田中愛子、小林聡、井原圭子、

上村剛士、野崎泰子

5・6月/理事会報告

- 4月20日から5月末まで貸室、クラス授業、カフェ営業を停止、感染予防ルールを決め会館利用者制限を実施。事業および活動の委員会は Zoom 会議を推進。
- うららかふえは6月中は会館居住者や関係者向けランチ提供を実施。
- 新型コロナウイルスの影響で女子留学生寮あじさい寮の入寮予定者および一時帰国者が来日できない事態が発生。

- 世界 YWCA 会員日集会および世界 YWCA 総会報告を Zoom と YouTube を利用して実施 (4/25)。
- 韓国 YWCA およびソウル YWCA へのインタビュープログラムを Zoom で実施 (5/22、5/28)。
- 5月半ばに本館キッチン改修工事を実施。

KYOTO YWCA No.557 2020年7月号 (7月1日発行)

発行人：上村諭巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通出水上ル近衛町44

電話：(075) 431-0351

FAX：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財) 京都 YWCA

定価：1部 50円

発行：奇数月 1日発行